

## 第5章 魅力・文化～『柏崎らしさ』をつなぐまちをめざして～

### 第1節 『柏崎らしい』個性をはぐくむ

#### 【施策の方針】

持続可能で暮らしやすいまちの実現を目指す「柏崎市立地適正化計画」に基づき、都市のコンパクト化を推進します。市役所旧庁舎跡地は、人が集まり新たな活動や交流を生む中心拠点として整備します。

本市の応援者である柏崎ファンクラブ\*会員の主体的かつ自主的な活動と連携して、本市の認知度の向上を図ります。また、ふるさと納税\*の返礼品の魅力を高め、地場産品を全国に広めながら関係人口の増加に取り組みます。

柏崎市認証米「米山プリンセス」は、魅力向上と販路拡大を推進し、柏崎産水産物においては、付加価値向上に取り組むことで、更なるブランド化と他地域との差別化を図ります。

移住定住を促すため、柏崎U・Iターン情報ステーション\*を総合窓口とした取組、柏崎の暮らしや各種助成制度などの情報発信や、移住志向者の情報収集を進めるとともに、産業を始めとする地域全体の活性化や人口の定着を図ります。あわせて、地域おこし協力隊\*の活動に関する情報発信や、その地域定着への支援をしていきます。

友好交流都市との青少年交流や水球を通じた国際交流を市民に広げるとともに、市内在住の外国人住民とのスポーツ交流などを通じて、市民の国際感覚を養います。また、柏崎地域国際化協会などとの連携によって、外国人住民とのコミュニティ形成を図るなど、多文化共生\*の理解を深めた上で、まちづくりを進めます。

#### 【施策の体系】

### 第1節 『柏崎らしい』個性をはぐくむ

#### 1 柏崎の魅力を高め、良さを伝える

- (1) 中心市街地の活性化
- (2) 地域の活性化を創出するシティセールスの強化
- (3) 地域資源と特性を活用した柏崎ブランドの確立
- (4) 交流・定住を促す戦略的なプロモーションの推進

#### 2 多文化共生を進める

- (1) 人材育成の推進と体制づくり
- (2) 国際交流の推進

## 1 柏崎の魅力を高め、良さを伝える

### 【現況と課題】

柏崎駅前などの中心市街地は、人口減少や居住機能が郊外へ拡散したことにより、人口の低密度化が進んでいます。このような状況でも、暮らしやすく、将来にわたり持続可能でコンパクトな都市を目指し、中心市街地の魅力向上や都市機能の誘導を図ることが必要です。

本市の魅力を発信していくシティセールスでは、柏崎シティセールス推進協議会\*と連携した様々な事業展開により、柏崎ファンクラブ\*会員数が令和3(2021)年12月末で10,203人に達しました。柏崎の認知度を更に高めるため、官民が共通認識を持って取り組んでいく必要があります。あわせて、本市の魅力発信を柏崎ファンクラブ会員が主体的かつ自主的に行う機運の醸成が必要です。また、ふるさと納税\*の継続的な寄附を獲得し、地域産業の活性化につなげていくことも重要です。

特産品のブランディングにより地域の魅力を発信している柏崎市認証米「米山プリンセス」は、その希少性から高価格米市場に投入され一定の需要に応じていますが、ターゲットを絞った販売戦略を強化し、より魅力を高める必要があります。柏崎産の水産物においては、地元消費者への認知度が低く、価格が安いことから、魚に神経締め\*等の付加価値を加え、柏崎ブランドとして認知されることが必要です。

若者の移住定住促進のため、柏崎市U・Iターン情報ステーション\*の設置や、オンライン相談窓口の開設など相談しやすい環境を整備してきました。学生や若者への更なるアプローチのため、官民が連携し、柏崎で働くことや暮らすことの喜び、柏崎の魅力を伝えるとともに、未来に向け活躍する若者等の魅力を伝えることが必要です。その上で、気力あふれる若者等を呼び込み、様々な分野の人材を確保し、移住定住につながる事業展開が必要です。

### 【主要施策の基本方向】

#### (1) 中心市街地の活性化

持続可能な都市を目指す「柏崎市立地適正化計画」に基づいて、中心市街地に都市機能などを緩やかに誘導することにより、コンパクトで住みやすいまちづくりを推進します。

旧庁舎跡地は、人が集まり新たな活動・交流を生む柏崎の中心拠点を目指します。また、市役所新庁舎に隣接している市所有の駅前5街区は、市役所の移転による人の流れや周辺環境などの状況を把握しながら、利活用方法の検討を進め、駅前から本町周辺を中心市街地のにぎわい創出を目指します。

#### (2) 地域の活性化を創出するシティセールスの強化

本市の応援者である市内外の柏崎ファンクラブ会員に対して、更に愛着を持てるような本市の魅力を発信するとともに、セールスパーソンである会員の主体的かつ自主的な活動を通じて、定住人口や関係人口等の増加を目指します。

市外から柏崎を応援していただけるように、また、柏崎の地場産品を全国に広めるため、ふるさと納税の返礼品の魅力を高めるとともに、生産者の返礼品に懸ける思いなどを積極的に発信します。あわせて、寄附者と本市の関係性の定着化について戦略的に取り組みます。



### (3) 地域資源と特性を活用した柏崎ブランドの確立

柏崎市認証米「米山プリンセス」のブランド力を更に向上させるため、希少性や高品質をPRしていきます。また、ターゲットを絞った販売戦略を強化します。

水産物については、魚の付加価値を高めるため、神経締め\*等の手法を定着させるとともに、マダイ、アラ、養殖ヒゲソリダイ等を、旬の時期に合わせてPRしていくことで柏崎産水産物としてのブランド力を向上させます。加えて、柏崎独特の漁法を用いるアラには、柏崎のネーミングを付した商標登録を行います。

### (4) 交流・定住を促す戦略的なプロモーションの推進

柏崎U・Iターン情報ステーション\*を移住定住促進の総合窓口として、柏崎出身学生を始めとする若者のUターンを促進するとともに、高まっている地方回帰の流れを柏崎に向ける取組を、若者等の意見も取り入れながら、官民が連携して戦略的に進めます。

柏崎で働き、暮らすことの魅力と移住定住に係る各種助成制度等の情報を、アナログ的手法とデジタル的手法を併せて発信し、移住を考える方が移住後の暮らしにより安心感を持てる取組を進めます。

地域おこし協力隊\*が取り組む地域協力活動及び地域インターン活動を通じ、柏崎の魅力や受け入れ地域の情報を広く発信することで、移住や地域協力活動に関心がある方々への興味や共感を促し、定住人口の増加及び関係人口等の創出を目指します。

目標指標	現状	目標
柏崎ふるさと応援基金への寄附者リピート率(※)	24.1%	25.0%
柏崎ふるさと応援基金への寄附件数	13,407件	20,000件
移住定住に関する相談人数	30人	55人

※当該年度に寄附された方のうち、当該年度より過去に寄附された同一の方の割合です。

個別計画	計画期間
柏崎市立地適正化計画	令和4(2022)年度～令和22(2040)年度
第二次柏崎市移住・定住推進行動計画	令和4(2022)年度～令和7(2025)年度

## 2 多文化共生\*を進める

### 【現況と課題】

本市に在住する外国人住民は年々増加し、令和元(2019)年度には約900人、住民割合で1.12%と県内でもトップクラスとなっています。このため、(公財)柏崎地域国際化協会による生活相談窓口の設置や、「生活ガイド柏崎\*」「ゆびさし会話帳\*」の作成などによって、外国人住民の方々が安心して生活できるよう、生活サポートを行っています。しかしながら、人員体制が整っておらず、十分な対応ができていないことから、外国人住民に対する相談体制のより一層の充実が必要です。また、地域社会において人口減少が進む中、外国人住民は地域活動の重要な担い手として期待されていますが、文化や言葉の違いによって制約が多いことから、お互いの文化や言葉を理解し合うための言語文化サポーター\*の育成が必要です。

災害時においては、多言語支援センター\*を設置し、外国人住民への情報提供や誘導に対して支援体制を構築しています。この体制をより強固なものにしていくため、(公財)柏崎地域国際化協会と更なる連携強化を進めていくことが必要です。

友好交流都市との青少年交流や、水球を通じた文化・スポーツ交流を継続するとともに、多文化共生社会\*の実現に向けて、市民の国際感覚を育てていく新たな取組についても関係機関と連携していくことが必要です。



## 【主要施策の基本方向】

### (1) 人材育成の推進と体制づくり

(公財) 柏崎地域国際化協会と連携しながら、外国人住民が相談しやすい環境整備を進めるほか、災害時に設置する多言語支援センター\*において、迅速かつ正確な情報を発信するため、避難者の出身国の文化や言語を理解することができる言語文化サポーター\*の育成など、運営体制の整備を進めます。

また、地域や企業を対象に、多文化共生\*を理解するための講座などを開催し、外国人住民の行動や価値観などについて理解を深め、外国人住民が地域コミュニティに参画しやすい環境整備を促進します。

多文化共生のまちづくりを進めるため、(公財) 柏崎地域国際化協会と行政の役割を見直した上で、連携を強化します。

### (2) 国際交流の推進

友好交流都市である中国淮安区淮安市や四川省峨眉山市との青少年交流、水球の世界的な強豪国であるセルビア共和国、モンテネグロ両国やアジア圏の水球チームとのつながりを更に深めるとともに、外国人住民とのスポーツによる交流を推進するなど関係機関と連携し、国際交流の推進を図ります。

目標指標	現状	目標
柏崎地域国際化協会賛助会員登録数(個人)	69名	100名
柏崎地域国際化協会賛助会員登録数(団体)	29団体	35団体
言語文化サポーター数(累計)(※)	30名	40名

※他国の言語や文化に理解を持ち、在留外国人等の活動に協力することに賛同していただいた方です。





## 第2節 大学を活かし『柏崎らしさ』をはぐくむ

### 【施策の方針】

新潟産業大学及び新潟工科大学は、本市における貴重な財産です。市内外から若者が集まり、学び、交流することにより、地域発展の拠点となっています。今後も地域と大学との連携を強化するとともに、知的な資源としてそのポテンシャルを積極的に活用し、柏崎の将来を支える人材として地元定着へつながる取組を進めます。

少子化の進行により、大学を取り巻く環境は厳しさを増していますが、本市の産業や自然環境、住みやすさなどの強みや良さを活かしながら、大学が安定した発展を目指すことができるよう、大学の個性や魅力の向上に向けた取組を支援します。

### 【施策の体系】

## 第2節 大学を活かし『柏崎らしさ』をはぐくむ

### 1 地(知)の拠点を活かした取組を進める

- (1) 大学との連携と協働の強化
- (2) 大学の魅力の向上



## 1 地(知)の拠点を活かした取組を進める

### 【現況と課題】

本市には、新潟産業大学と新潟工科大学の2つの4年制大学が存在しており、多くの若者が集い、学び、活動していることは、本市の魅力の一つです。平成21(2009)年には2大学との連携協定を締結し、市の附属機関への参画や柏崎のまちづくりに関する調査委託などを実施していますが、更に連携を強化し、地域課題の解決に向けた取組を積極的に進めていくことが必要です。

令和2(2020)年度の入学生は定員を満たしましたが、少子化の進行や18歳人口の大幅な減少などに伴い、学生の確保が厳しい状況にあります。このため、選ばれる大学となるよう、大学の認知度や魅力度が高まるような支援を行っていくことが必要です。

### 【主要施策の基本方向】

#### (1) 大学との連携と協働の強化

柏崎商工会議所や金融機関などの関係機関と連携し、地域経済に貢献する新技術や新製品の研究開発に取り組むなど、大学の研究機能を活かしたまちづくりを推進します。

これらの取組と併せて、将来の柏崎に必要な人材の確保や育成及び地元定着を積極的に進めます。

#### (2) 大学の魅力の向上

大学独自で進める個性・魅力の向上や学生の確保に関する取組を支援するとともに、2大学の認知度や魅力度を高めることで市内外からの進学を促進します。

また、市内出身学生に対する給付型奨学金制度を支援するほか、卒業後、市内に定住した際には、奨学金償還額の一部を助成し、学生の負担軽減と市内企業への就職促進を図ります。

目標指標	現状	目標
2大学の進学定員数に対する充足率	79.8%	100%



## 第3節 歴史や文化の息づく『柏崎らしさ』をつくる

### 【施策の方針】

GIGAスクール構想\*等を踏まえて、WEBミュージアム\*の充実、活用を進めます。指定文化財等基本調査を実施し、その成果をWEBミュージアムにより発信します。

本市の産業文化を学べる機会を提供し、保存と活用を進めます。

「柏崎市景観計画」に基づき、景観の向上に努めます。

良質な芸術作品の鑑賞機会や活動の場を引き続き市民に提供するとともに、新たなイベント等の開催を企画するなどして、市民の文化活動に対する興味や関心を深め、主体的に文化活動を行う人材の育成につながるよう支援します。

教育機関や芸術団体との連携により、広域的に文化交流を推進します。また、市民の文化交流や文化活動を支援し、周辺エリアのにぎわい創出につなげるよう取り組みます。

### 【施策の体系】

#### 第3節 歴史や文化の息づく『柏崎らしさ』をつくる

##### 1 歴史・文化を保全・活用し、継承する

- (1) 伝統芸能の継承
- (2) 歴史・文化資産の保存と活用
- (3) 産業文化や生活文化の保存と活用
- (4) 景観まちづくりの推進

##### 2 市民の主体的な文化活動を支援する

- (1) 市民の文化活動への支援
- (2) 多様な文化交流の推進

## 1 歴史・文化を保全・活用し、継承する

### 【現況と課題】

本市には、文化的価値が全国的に認められている国指定重要無形民俗文化財「綾子舞」を始め、市指定無形民俗文化財「おいな」、「しげさ」、「石井神社の大和舞」、「物部神社の太夫舞」など、様々な伝統芸能が市内各所で伝承されています。しかし、人口減少や過疎化などの影響により、伝統芸能の存続は全国的な課題となっており、保存活動や後継者育成などへの支援が必要です。

令和元年(2019年)には、高柳町の「枳ヶ原地すべり第一号集水井\*」が本市では初めて土木構造物として国登録有形文化財に指定されるなど、本市には多様な歴史・文化資産が多く残されています。しかしながら、指定文化財の所有者や管理者の高齢化、財源不足などがあいまって、保存が困難となっている事例もあることから、保存や活用に関して支援を行っていくことが必要です。国内外の歴史的建造物等の火災が相次いで発生しましたが、防災対策についても強化していくことが重要です。また、価値付けが定まっていない文化財の保護については、全国的な調査や検討が求められています。

博物館では、地域の文化や国土、先人たちの営みや偉業を学ぶことができるWEBミュージアム\*を運営していますが、小・中学校の学習での利用は必ずしも多くはありません。また、平成30(2018)年3月に博物館の人文展示室、プラネタリウム室のリニューアル等が完成しましたが、直後に比べ入館者は減少傾向となっており、市民に対してより多くの情報や学習機会を提供できるような工夫が必要です。

本市は豊かな自然景観を始め、かやぶき環状集落や北前船の寄港地としての人の営みが感じられる文化景観を有しています。自然景観の保全や文化景観の継承を図るため、規制誘導による全市的な景観水準の向上と、市民一体となった良好な景観形成への意識の醸成が必要です。



綾子舞



## 【主要施策の基本方向】

### (1) 伝統芸能の継承

地域住民による主体的な伝統芸能の保存活動に対して、後継者の育成、効率的な情報発信などを支援します。

また、伝統芸能を後世に受け継ぐため、地域や学校との関係性をより強固なものにし、各地域に伝わる伝統芸能を継承する環境づくりに努めます。

さらに、国指定重要無形民俗文化財の綾子舞を含む「風流踊(ふりゅうおどり)」のユネスコ無形文化遺産登録に向けて、関係団体との連携を強化します。

### (2) 歴史・文化資産の保存と活用

所有者等に対し、適切な保存や国の国宝等における令和2(2020)年度からの防火対策5か年計画及び同ガイドラインに準じた防火対策等の助言を行い、歴史・文化資産の保存に努めます。

指定文化財等の詳細な現状の把握と所有者等の理解を深めるため、専門家等の知見を得ながら、指定文化財等基本調査事業を実施します。調査成果はWEBミュージアム\*を活用し、本市歴史文化の魅力として市内外へ発信します。

また、市内2大学、コミュニティセンター、柏崎観光協会等と連携し、生涯学習講座や市民大学等を通して、柏崎地域固有の魅力ある歴史・文化資産をPRします。

学校におけるGIGAスクール構想\*等による学習環境整備の方向性を踏まえ、WEBミュージアムの各コンテンツの充実を図り、学校と連携して教育での活用を進めます。

### (3) 産業文化や生活文化の保存と活用

本市の産業文化を歴史とともに学べる機会を提供します。また、生活文化については、概念上その範囲が広く、分野ごとに特徴が異なるものであるため、国が進める新たな文化財等の保護措置と合わせて調査研究を行い、保存と活用を進めます。

### (4) 景観まちづくりの推進

「柏崎市景観計画」による届出制度により、周辺の景観に影響が大きい大規模建築物などを対象に、緩やかな規制誘導を行います。本市特有の自然景観の保全と文化景観を継承することで、市民の景観に対する意識の向上を目指します。

目標指標	現状	目標
WEBミュージアムアクセス件数 (子ども向けWEBミュージアム)	65,390件	80,000件
個別計画	計画期間	
柏崎市景観計画	平成28(2016)年3月策定	
第四次柏崎市生涯学習推進計画	令和4(2022)年度～令和7(2025)年度	

## 2 市民の主体的な文化活動を支援する

### 【現況と課題】

文化芸術活動は、人々に楽しさや感動、精神的な安らぎや生きる喜びをもたらし、人生を豊かにするとともに、地域の活性化を図る上で極めて重要です。

本市では、文化会館アルフォーレ及び産業文化会館を中心に、市民に良質な芸術作品の鑑賞機会や活動の場を提供していますが、参加者や出演団体数が減少しています。また、これまで長きにわたり開催してきた新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展や柏崎市美術展覧会は、人口減少などの影響により出展者数が減少し、展覧会の規模は縮小傾向にあります。このため、市民の創作意欲を向上させる取組や、文化活動を行う人材の育成が必要です。

人口減少が進行する中、様々な分野において広域連携による取組が求められています。本市においても新潟県文化祭や国民文化祭に参加するとともに、県内外の文化施設や文化団体との連携事業を進めています。音響の評価が高い文化会館アルフォーレの大ホールでは、国内外のアーティストがレコーディングや指導会を行っています。しかしながら、利用者数は減少傾向にあるため、本市と友好関係にある自治体間で市民による多様な文化交流を展開するとともに、文化の魅力を高め、にぎわい創出につなげることが必要です。



野外おんがく堂





## 【主要施策の基本方向】

### (1) 市民の文化活動への支援 **重点1**

新潟県ジュニア美術展覧会柏崎展は、小・中学校の児童生徒から芸術に親しんでいただく大切な機会として継続していきます。柏崎市美術展覧会は、コロナ禍において初めて実施したWEB\*開催について、今後は過去の作品もWEB上で鑑賞することができるよう取り組みます。

また、新たなイベント等の開催を企画するなどして、市民の文化活動に対する興味関心を醸成し、主体的に文化活動を行う市民の育成につながるよう支援します。

あわせて、市民の意見やニーズが文化振興の施策に反映しやすい環境づくりに努めます。

### (2) 多様な文化交流の推進 **重点1**

子どもや若者の創造的な才能を伸ばすため、広域連携による取組を拡充し、教育機関や文化団体の合宿及び国内外のアーティストによる指導会等の誘致につなげて多様な文化交流を推進します。

文化会館アルフォーレ及び産業文化会館を活用して、市民同士の多様な文化交流を推進するとともに、市民の主体的な文化活動を支援し、周辺エリアのにぎわい創出につなげる活動に取り組みます。

目標指標	現状	目標
文化会館アルフォーレ利用者数(延べ人数)	155,411人 (令和元(2019)年度)	164,220人
個別計画	計画期間	
第四次柏崎市生涯学習推進計画	令和4(2022)年度～令和7(2025)年度	



かしわざき市民大学(渋沢栄一の足跡)